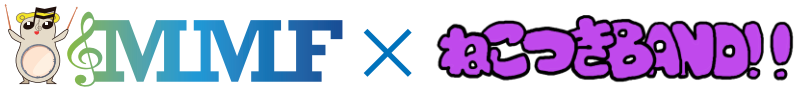


音友会の企画・運営催事活動に「演奏グループとのコラボ運営」が新たに進捗



「第5回元住吉ミュージック・フェスティバル(MMF)」開催について

「MMF-2026」は、昨年MMFに参加した「ねこつきバンド」との合同運営で開催します。

昨年のMMF-2025では、トップバッターとして演奏したあと、客席に戻ってそのままフェスを満喫しました。いろんなジャンルのバンドさんの楽しい演奏が次々と続いて、気づけばあっという間に9時間が過ぎていました！。MMFはホールでのフェスなので、様々なジャンルの音楽がゆったりと楽しむことができとても感動しました！

もともと自分たちでもイベントを主催できたらと思っていたところだったので、運営を勉強させてもらうべく「お手伝いしたいです！」と申し出たところ、企画や運営にも参加させてもらえることになりました。

今年のMMF-2026は演奏はもちろん、MMFの館内だけでなく、会場広場でのキッチンカーや商店街とのマルシェなど『音楽+αの街ぐるみでの楽しみ方』も一緒に考え「元住吉ミュージック・フェスティバル」を皆さんと一緒に盛り上げて開催したいと思います。

ねこつきバンド一同

第5回元住吉ミュージック・フェスティバル(MMF-2026)

- 開催日:2026年4月25日(土) 11:00 ~ 20:00
- 川崎市国際交流センター・ホール
- 出演者募集予定:2025年11月1日(土) ~ 12月31日(水)

総合司会は、MMF-2025でご来場者および出演者を十二分に楽しませていただいた夫婦音楽漫才の「ミニッツ」が引き続き進行です。



▲「ミニッツ」とMMF実行委員会メンバー



▲合同運営の「ねこつきバンド」



音楽好きな友の会
http://ontomo.jp/

後援
●川崎市中原区
●「音楽のまち・かわさき」推進協議会
●公益財団法人 川崎市国際交流協会

2025
10
October

あいそる/リリー:シンガー

鹿児島県出身。幼少期よりピアノを習うも歌への情熱が強く、特に中学で洋楽に没頭する。学生時代には演劇部部長、合唱部所属、英語科卒論では英語ミュージカルの脚本、作詞作曲、演者を務めた。子育てと仕事が一と段落したのを機に2019年より、洋楽邦楽と幅広いジャンルで演奏する「あいそるバンド」にボーカルとして参加、現在他にはユニット、ソロ(ギター)でも精力的にライブ活動を行い、またハードロックバンドにもCho & Voで所属するなど、多方面で音楽を届けている。MMFには「あいそるバンド」にてプラス隊とパーカスを含めた9人編成で出演。高度なボーカル技術を追究し続けています。なお、ステージネームを「あいそる」はバンド演奏で、「リリー」はユニットとソロ演奏と使い分けて活動をしていますのでぜひYouTubeを搜してみてください。



2025年
10月
はお休みです。

音友レコード倶楽部

レコードコンサートのプログラムは
・Light music/軽音楽の集い
& Jazz Date/ジャズの集い
・持ち寄りタイム/持参レコード/CDを
楽しむ集いで開催中

連載08 ヴァイオリン王子が贈る "Buono!"なヴァイオリンのお話
音大って華やかな世界？

Buono Naoki

ヴァイオリン奏者 坊野 称央己



13歳からヴァイオリンを始め上野学園大学音楽学部を卒業。アーティストサポートやイベントに多数出演する他、武蔵小杉・元住吉エリアにて出張レッスンやオンラインレッスンも展開中。

Violinist・坊野称央己
Official Site
naokibono-violin.com



上野樹里さんと玉木宏さんのW主演で話題になった、いわゆる「音大ドラマ」。放送されたのは2006年で、ちょうど私がヴァイオリンを始めた頃でした。当時はそんな「のだめ」に興味はなく、ドラマの影響でヴァイオリンを始めたわけでもなく音大を目指したわけでもありませんでした。ドラマで描かれていた音大はある意味リアルな部分も多いと、後にドラマを観て感じましたが、あれほど華やかな世界ではないかもしれません。

音大はまず、必ず1つの楽器をメインの専攻楽器として選びます。(作曲 など例外もありますが)そして一番大事なのはいはり専攻楽器の授業(レッスン)です。基本的には週に1〜2回のレッスンが組まれていることが多いですが、このレッスンの度に一喜一憂、練習に追われる日々、そして演奏試験の度に神経をすり減らし、(笑)そんな繰り返しでした。このレッスンを軸に自身の腕を磨き、オーケストラや合

奏の授業などでアンサンブルも学んでいます。さらに私の出身大学では選択で室内楽を組むことができ、学内演奏会の機会も多く非常に恵まれた環境でした。そんな「音楽ばかりを勉強する場所」というイメージの反面、実際は音楽の科目ばかりではなく一般教養科目も多く、それが全体の半数を占めていたりもします。また、一般大学にはあるサークルなんというものも存在しないことが多いです。(音楽団体を作って活動している人たちは結構います)そして、音大在学中に学んだ音楽をどうアウトプットして生きていくか、そういったところは自分自身で学外との交流を持ったり、世界を広げていくことが必要だと感じました。音楽の世界が厳しいと言われるのは、音大という環境が大きく関係していると思います。また、私が感じた音大の面白い部分は、専攻する楽器によってどんな人格や性格を生むか。今回はそんなお話をしていきたいと思います。

連載03 世界旅と音楽〜経験を音にする
Camphortree(カンファーツリー)との出会い

ギタリスト:Yuta Tanaka

こんにちは、ギタリストのYuta Tanakaです。今回はオーストラリアに住んでいた時の事を書きました。

その後日本に帰国し、桜木町駅で天候にめげず路上演奏をしていました。思えばその時は貴重な時期で路上演奏から様々な人と出会い、今もつながって応援してくれる人がたくさんいます。そんな中ファンの方からパーティーがあるので演奏してほしいと依頼があり、日本大通り駅



▲亡きオーナーのコレクション

近くのカフェレストラン「カンファーツリー」というお店を知りました。海岸通り沿いにあるこのお店はとてもおしゃれで雰囲気のあるお店で家族で経営されています。

いい意味で商売気がなく、好き嫌いがはっきりしていて、なんでもはっきり言うマスターもママも感じがよかったです。

マスターはブルースが好きでライブをやらせてもらう度にコテコテのブルースが聴きたいとよく言ってくれたのを覚えています。レコードを借りたり、夕飯を一緒に馳走になったり、夏にはバーベキューが何かでお家にお邪魔したりととても良くしてもらっていました。ライブ終わりにマスターがつくるペペロンチーノが好きでした。残念ながら今は他界してしまいました。数週間前に会ったばかりでありにも突然すぎてショックでした。

自分に出来ることと言えば曲をつくる事

でした。その時に「Harbour side blues」という曲をつくりマスターに捧げました。港町が似合うスローブルースです。現在ママと息子さん2人でお店をやられています、日本に帰国するたびにライブをやらせて頂いています。

興味ある方は非一度「カンファーツリー」に行ってみてください、料理もおいしく素敵なお店です。パークジンジャーがおすすめです！

旅は続く



▲パークジンジャー

川崎市国際交流センター

2025インターナショナル・フェスティバル in カワサキ

さまざまな国や地域の音楽やダンスを楽しめるステージ、川崎で活躍する団体の活動発表、留学生との交流、いろいろな地域の物産が買えるバザール、料理が味わえるキッチンカーなど、見て知って体験できる入場無料のフェスティバルです。

今年は、カメルーン生まれ、関西育ちの"元"少年が描く笑い涙のコミックエッセイ!「アフリカ少年が日本で育った結果」の著者 星野ルネさんによるトークショーも開催します。ルネさんのおもしろエピソードやトークを楽しみながら、多文化共生について考えてみませんか。

- 日時:11月9日(日)10:00-16:00
- 会場:川崎市国際交流センター
- 主催:インターナショナル・フェスティバル実行委員会(かわさき国際交流民間団体協議会、(公財)川崎市国際交流協会)



詳しくはこちら

●お問い合わせ
公益財団法人川崎市国際交流協会
TEL 044-435-7000 E-mail:kiankawasaki@kian.or.jp
ホームページ https://www.kian.or.jp/

川崎市生涯学習プラザ

第153回ランチタイム・ロビーコンサート

出演:Ulili(ウリリ)
with よみうりカルチャー川崎サンデーフラ
(ウクレレ、ギター、ボーカル、ハワイアンダンス)

[プロフィール]
'Uliliは、ハワイ音楽を、ウクレレとスラック・キー・ギターで歌うユニット。川崎、東京方面で活動中です。ハワイの伝統的な奏法やハワイ語の響きを大切に演奏いたします。よみうりカルチャー川崎サンデーフラは、川崎駅のアトレ5階にある「よみうりカルチャー」で月に2回レッスンをうけているチームです。ハワイを感じながら皆で仲良く練習しています。

- 日時:10月16日(木曜日)
12:00開場/12:10開演
/12:40終演予定
- 料金:無料
- 場所:川崎市生涯学習プラザ
・1フロア

- 予定曲目
・ヘウイ
・ブアリリレファ
・コアリ
・アロハ カウアイ
・ハナレイムーン 他

●お問い合わせ
(公財)川崎市生涯学習財団 総務室 総務係 ロビーコンサート担当
TEL 044-733-5560 E-mail: concert@kpal.or.jp
川崎市中原区今井南町28-41
ホームページ https://kpal.or.jp/

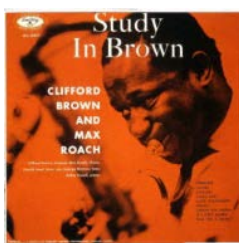
音楽好きな友の会 (音友会)

10月30日はクリフォード・ブラウンの誕生日

Fujita Junji

音友レコード倶楽部:藤田 順治

脱退。その後、マックス・ローチと双頭コンボを組み、名盤「Study In Brown / Clifford Brown & Max Roach」を始め、自己のコンボ演奏以外にサラ・ヴォーン、ヘレン・メリル、ダイナ・ワシントンなど女性歌手の歌番アルバムも発表する。しかし、自動車事故により25歳という若さでこの世を去ってしまう。短い活動期間であったが、レジェンド的な存在としてジャズ界に今も大きな影響を与えている。



▲Study In Brown / Clifford Brown & Max Roach

♪ 2025年10月末定のお知らせ!! ♪

第202回音友レコード倶楽部は暑さのためお休みです。※詳しくは「音友会」のホームページでお知らせします。

https://ontomo.jp



音友レコード倶楽部PR動画!
「音友レコード倶楽部」を
わかりやすく説明したPR動画を是非ご覧ください。

常連の参加者との共同製作です。
撮影・編集はギター奏者の永瀬晋が担当。
新規参加の前に、ぜひご覧ください。
YouTube配信中。

連載14

オカリナに誘われて
真剣勝負は感動とパワー

毎年生徒たちの発表会を年1回開催しています。色々準備は大変ですが、私には幸せな一日になるので、とても楽しみにしています。

今年も10/19日曜日に会場が取れたので、もうすでに色々な準備が始まっています。この日に向けて演奏曲を決めて、一生懸命練習している過程を心に刻みながら指導していきます。当日思い通り演奏できる場合も、緊張で上手くいかない場合もあったりして、一喜一憂ですが、私にしてみると、どんな結果であろうと みんなの真剣勝負を目の当たりにできて嬉しい限りです。

生徒たちが発表するときは、私は指揮をしたり、一緒に演奏したりします。今まで練習してきた色々なポイントを思い出しながら、上手いくと心の中で大きくピースだし、上手くないときは心の中で応援団さながらの応援をしています。(そんなことが私の中で行われているのは誰も気が付きませんが)なので、発表会の最初から最後まで、私の心の

中では色々な気持ちが湧き上がっています。こんなに心を揺らさずしてなかなかないと思うんですね。とても貴重な経験です。これは、他の先生の生徒さんの発表会にお手伝いに行っても経験できません。心の中の応援団は常に応援体制ですが、過程を知っていると知らないのとでは応援力が大分違います。

今では私はクラリネットの演奏もイベントなどでさせていただいていますが、オカリナの仕事を始めてから、クラリネットのスランプが長く続き、もう以前のように演奏できないかもしれないと、少し諦めていた時期もありました。そんな私が、発表会の生徒たちの姿に勇気づけられて、そうだクラリネットの演奏を発表会の講師演奏でさせてもらおうと思い実行しました。それから少しずつ演奏できるようになっていきました。クラリネットが今のように演奏できるのは、生徒たちの素敵な姿を見せてもらって、沢山の勇気をもったからです。

クラリネットの木のふくよかな温かい

小棚木 恵美子

Kotanagi Emiko

響きと、オカリナの焼き物のやさしさあふれる響き この二つの響きに癒されながら、沢山の方にこの響きを届けたいと思っています。

発表会は入場無料ですので、どんなでも入場いただけます。オカリナの柔らかな音色と、生徒たちの真剣勝負の演奏を、是非聴きにいらしてください。



「思い通りに演奏できる!オカリナ上達のポイント50」監修出版。神奈川・東京を中心に演奏活動しています。

●第二・四(水)、(金)には、武蔵中原駅近くのコーヒースポットライフにて、オカリナ体験できるレッスンや オカリナのお悩み相談を受けるレッスンやイベントを開催中♪

【予約受付 090-2436-5985 花】
●2025年10月19日(日)10時半～15時予定小棚木クラスオカリナ発表会を「テクノかわさてくのホール」にて入場無料で開催します。是非お立ち寄りください。

Instagramも是非のぞいてください
https://www.instagram.com/emikokotanagi/

Instagram
@emikokotanagi



連載31

脱線ニューヨーク滞在記
思い出し寄り道編の寄り道 ニューオリンズ

Demura Katsuaki

出村 克明

前号からのつづき

前号ではニューオリンズの歴史をおおまかに辿りましたが、その背景に在った先住民の文化。あまり表面には出て



▲The Wild Magnolias / The Wild Magnolias

いませんが独特のリズム、歌唱スタイルはニューオリンズ音楽の成り立ちにも影響を与えています、また、今回は見ることが出来なかったリオのカーニバルと並ぶニューオリンズの有名なお祭り(カーニバル)マルディグラにも先住民の独特の色合いとデザインをアレンジした豪華な衣装を、マルディグラ・インディアン・グループが身に付けてパレードを、カーニバルには欠かせないものになっています。

このお祭りおっぱいを出して首飾りを掛けてもらう事でも有名らしく、フレンチクォーターのどのお土産屋にもマネキンにおっぱいをプリントしたTシャツを着せて売っているくらいです、謝肉祭と云う宗教的お題目のもとにこれほどおっぱいが主要なアイテムとなっているとは!この祭りに居合せなかったことは実に残念でした。

話は変わりますが、理想社会の構築を目的にメイフラワー号で北米に(1620年)渡ったピューリタンの人々はだれも居ない大地を神が与えてくれた

新天地のように感じ、最初の移民となりその土地に住み着きそれが植民地に(歴史学としては様々な事象が記されているですが、一般的には先住民(インディアン)は西部劇映画で見る様な感じですね)大地は先住民にとって縄張りの概念はありますが領土とか国の概念は無かったでしょう。移民問題や自国優先論などは意味さえ存在しなかったと思います。多かれ少なかれ今日のグローバルサウス少し前の第三世界も同じように辿ってきたと思います。よく西部劇のストーリーで土地の争いがテーマになっていますが大方入植者同士のトラブルでインディアンは蚊帳の外。日本でも大人気だったアラン・ラッド主演の西部劇「シェーン」のストーリーもそうでした。フロンティア精神と云われる御旗のもとに入植者がどんどん開拓していく、そして暫くしてアフリカ大陸から多くの人々が、違う大陸から違う人種が、奴隷制と云う関係で人為的に共存し僅か二、三百年で違う風景の大陸に、南北(アメリカ)共、新大陸と云われる所以です。入植者が持ってきた文化、文明と他人種の到来それが新天地の景色になったのです。アントニン・ドヴォルザークが1893年にアメリカで作曲した交響曲第9番「新世界より」はまさしくその通りの印象を想い描いたのでしょう。

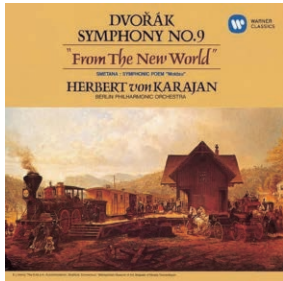
ニューオリンズはその景色を形成する勝手口になっていました。特にアメリカ文化の最たるものとして音楽文化は前述した人為的共存によって生まれました。「災い転じて福と為す」の例えは疑念を抱きますが、苦境の中での強力な造反精神も一因として生まれ

パーカッション奏者
コンセプチュアルアーティスト
現代アートでは空気、無を梱包して送る
エアメールアートを展開している。

出たと思います。もしこの交流の歴史が自然の流れ(非人道的ではなく)で辿って来たとしたらアメリカには今ほどのアフリカ系の人はなく、ブルースのモチベーションもなくゴスペルも存在を必要とせず今日のjazzやロック、中、南米のLatin、ボサノバは生まれたか疑問です、J-POPもK-POPもなく日本では、ませた小学生が学校帰りに鼻歌まじりの都都逸ですかね(冗談)。トランプさんも出る幕はなく、ニューオリンズはどんな感じになっていたかな、と。前号と重なるようなところもありますが、最近のニュースに触発されました。

で、……雨も止んだのでバーを出て老舗のjazzハウス「プレザベーション・ホール」へ行きましたが予約がいっぱいなのでやめました。人も出てきてそこから音が聞こえてきました、音が大き過ぎる所が多く、落ち着いた音を出している所を探し取りあえずパーボンストリートの「フリッツェルズ・ヨーロピアンジャズ・パブ」に入りました……

次号へ



▲ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 /ドヴォルザーク 交響曲 第9番「新世界より」

特別寄稿 Conversations 音友レコード倶楽部・音楽談議

究極のアナログレコード、ダイレクトカッティング

Shiranita Kazuhiro

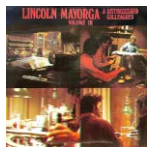
DJ担当:白仁田 一浩

レコードブームでアナログ盤を買い始めた方が増えていると思うが、今回の話題は高音質ダイレクトカッティング・レコードである。ダイレクトカッティング(以下DC)はマスターテープなどの中間録音媒体を介さず直接ラッカー盤(レコード盤のもと)に音溝を刻む手法で、1970～80年代に最盛期を迎えた。レコード片面の全曲を一気に通して録音する一発勝負で、中断や休憩は勿論のこと編集や修正も一切できない。そのため演奏者・エンジニアとも大変緊張するが、音の鮮度や臨場感は通常のレコードとは比べ物にならない。ここではDCレコードを何枚かを紹介する。

DCの代表格と言えばアメリカのシェフィールド・ラボ。その創立者の一人であるピアニストのリンカーン・マヨルガが中心となり収録した「Volume III」(写真①)はクラシックとジャズ・フュージョンが融合し

た楽しいアルバム。大編成バンドの各楽器音の粒立ちや空気感までもが鮮やかに迫ってくる。同じシェフィールドのハー・ジェイムス&ヒズ・ビッグ・バンド「The King James Version」(写真②)は、スウィング黄金期の香りを現代に蘇らせた名演。ホーンセクションの厚みとリズム隊のグルーブ感が生々しく、まさに“生音”が刻まれている。演奏の完成度も高くオーディオ的快感に満ちた1枚。セルマ・ヒュー스턴&プレッシャー・クッカーの「I've Got The Music in Me」(写真③)もシェフィールドの傑作盤。力強いヴォーカルとビッグバンドの熱い演奏が融合したソウル・ファンクがぎゅーりと詰まっており、スタジオの空気まで伝わるかのような録音で音の分離感とダイナミクスが際立つ。一方、シェフィールドに負けないハイクオリティ DC盤を生み出そうと発足したテネシー州のレーベル、その名も「ダイ

レクト・ディスク」。ネオフォニック・ストリング・バンドによる「The Neophonic String Band」(写真④)は、ブルーグラスの名曲群を精緻なアンサンブルで再構築したカントリー&ウェスタン演奏。バイオリンやバンジョー、マンドリンといった弦の質感と空気感、まるで目の前で演奏されているかのような臨場感が味わえる。国内では21世紀初のDCとしてキングレコードから2019年に発売された45回転重量盤、井筒香奈江の「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio」(写真⑤)がアナログオーディオ界の話題をさらった。現代のハイレゾストリーミングには無い魅力を持つ究極のアナログ録音、ダイレクトカッティング・レコード。リスニング環境が許せば是非大きめのヴォリュームで楽しんでいただきたい。



▲① Volume III / Lincoln Mayorga & Distinguished Colleagues



▲② The King James Version / Harry James & His Big Band



▲③ I've Gotta Music in Me / Thelma Houston & Pressure Cooker



▲④ The Neophonic String Band



▲⑤ Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio / 井筒香奈江

特別寄稿 Conversations 音楽談議

王立バンコク交響楽団と仲間達

Nakagawa Yukihsa

チェリスト:中川 幸尚

今回は2000年にタイに渡った数年後に入団したバンコク交響楽団(現・王立バンコク交響楽団)の音楽家たちとの事について書きます。2000年にバンコクに移住後はマヒドン大学音楽学部附属学校のチェロ講師として指導をメインにしましたが、数年後には退職(そのことはまた書く機会があるかもしれません)すぐにバンコク交響楽団(以下BSO)に入団しました。BSOのコンサートマスターやチェロの首席奏者たちに入団を促された事が大きかったと思います。多くの団員は欧米や香港、日本に留学して研鑽を積んだメンバーで音楽監督は日本人指揮者の矢崎彦太郎氏でした。矢崎さんとはその後、現在も続く仲をそこで築きました。日本に比べたらまだそこまでレベルは高くなかったですが「音楽が好き」オーラにあふれた、心から演奏を楽しむ、しかし常に真剣なメンバーでした。面白いのはリハーサルが1日3時間で4日間程度あるのです

が、基本初日はほとんど皆が「初見」という事最初は驚きました。日本では初日のリハーサルで皆ほぼ完璧に弾くので。BSOメンバーは曲もよく知らない状態で初日を迎え、出るところを間違ったり、全く指揮者についていけなかったり。初めての指揮者は皆呆れるか怒ります。しかし翌日のリハーサルでは1日目曲がわかったのかほぼ完全に弾くという、とにかく対応力がすごい。そして常にコンサート本番がベストな状態で最高なんです。全てのコンサートが悦



▲王立バンコク交響楽団の仲間達と

びにあふれていました。お互いの奏者が全くの「ノープレッシャー」でいい演奏したらリハーサル中も本番後もお互い称賛し合う。最後には怒った指揮者も「また来たい」と言わせるような魅力的なオーケストラでした。そして次第にBSOのトップメンバー達に誘われて室内楽と一緒にしていく事になります。バンコクでの室内楽の経験が今の日本での室内楽という「ライフワーク」につながっていることは間違いありません。(つづく)

連載89

Course: Addicted to Guitar
A マイナーペンタトニック リフ・ブルース

Nagase Susumu

ブルースロックピン芸人 永瀬 晋

いつもお世話になっております。引き続きギターを始めたばかりの方への攻略コラムを紹介していきたいと思います。今回も引き続き「A マイナーペンタトニック(ブルーノート)」を掘り下げていきます。以前ペンタトニックスケールを覚えていただくとすぐにセッションができるというお話でしたが、実際にセッションのテーマでよく使われる「ブルース」を題材にして、今回のテーマで

ある「リフ・ブルース」を弾いてみましょう。そもそもリフとは何ぞやという話になってしまいますが「リフレイン」の略で、一つの題材が繰り返されると考えていただくとわかりやすいと思います。早速譜例です。まずはA7におけるAマイナーペンタトニックスケールで作られた伴奏パターンが一小節目ですね。この音の流れをD7、E7に当てはめていくと、2、3小節目のようなパターンが作ら

Ex-1



Ex-2



Ex-3



ソウリーヴ・ミュージック・スクール
SouleaveMusic School
http://souleave-music.com/
元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分
チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992
レッスンは8:00～22:00開始迄、詳細は要連絡



♪掲載登録アーティスト募集中!!♪

全国のミュージシャン、および音楽活動に関わる人をネットワークし、そして演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信活動の後押し、が目的です。元住吉から世界に向けて配信しています。
演奏者の方々で「モットンクラブ」から配信希望の演奏動画も募集しています。(近郊で企画、運営可能なスタッフも募集中)

